

公務災害防止事業の推進

消防団員安全管理セミナーを実施して

南空知消防組合長沼消防団 団長 伊藤 信正

1 はじめに

長沼消防団のある長沼町は、石狩平野の南東部にあり札幌市から東に32kmの都市近郊に位置し、町域は、東西に15.5km、南北に21.1km、周囲47.1kmにして面積は168.36km²であります。地勢はおおむね平坦ですが東側を南北に連なる標高100～290mの馬追丘陵が貫き、本町の郷土景観の骨格となっています。また、北側を夕張川、北西側を旧夕張川が流れ、それらが千歳川と合流して他市町との境界を形成しています。

大消費地である札幌市や空の玄関口千歳空港に近いことから、生活や産業には恵まれた立地条件にあります。特産品の「味付けジンギスカン」は北海道内を中心に、町の内外を問わず大

変な人気があります。また、国の地域経済の活性化を狙った規制緩和策である構造改革特別区域の一つとして「どぶろく特区」の認定を受け、どぶろく製造免許を取得した数件の農家が、どぶろくの製造・販売を行っており、大変に好評を博しております。

2 長沼消防団の沿革

長沼消防団は、明治43年に公立長沼消防組が組織されることになり、町内の数組の併合が行われたことに始まります。昭和22年には長沼村消防団と改称し、昭和27年の町制施行による改称を経て、昭和47年に隣接する栗山町、由仁町、長沼町、南幌町の4町で発足させた南空知消防



町の木 エゾヤマザクラ



組合設立に伴い、長沼町消防団から長沼消防団に改称となり、創立100年が経過し、現在に至っています。

平成22年3月31日現在、長沼消防団は1団、3分団、12部、19班、団員140名の編成となっております。さらに、町内には女性防火クラブが組織されており、約70名の会員が予防活動、災害時の後方支援（炊き出し等）などの防災防火活動を行っております。また、当消防団では女性消防団員7名が4月1日に入団し、今後の活躍が期待されているところであります。

3 長沼消防団の活動

昨今、火災等の災害は建築構造や使用形態の変化などにより、複雑多様化の一途をたどっていることから、地域ぐるみの防災体制が重要となっており、消防団に対する期待が高まっているところであります。また、大規模災害の発生

は大都市部に限られず、どのような地域においても発生し得ます。当消防団においても大規模災害の対応を意識する姿勢が求められていることから規律訓練、救命講習、防火査察等を行い、災害を未然に防ぎ被害を軽減させるため日々活動しています。

4 安全セミナー開催に至った経緯

当消防団では、年間行事計画にしたがって、消防ポンプをはじめとする資機材の取扱いやポンプ操法等の各種訓練を行ってきました。また、年1回、栗山消防団、由仁消防団、長沼消防団、南幌消防団が一堂に会し、合同訓練を行っていますが、幹部団員より「安全管理についての研修を行ってほしい」との要望がありました。

その要望を受け、準備にとりかかっていたところ、消防基金で公務災害防止研修事業を推進されており、消防団員を対象にした「安全管理



講演の様子

セミナー」、「S-KYT研修（消防団危険予知訓練）」、「健康セミナー」の三つの公務災害防止研修を開催する場合に講師の派遣や費用の助成がされることを知りました。そこで、この公務災害防止研修事業を活用し、安全管理と健康管理の重要性を認識するとともに、それを消防団全体へ普及することを目的に「安全管理セミナー」を開催することとしました。

5 研修をおえて

研修当日は、「安全管理セミナー」と長沼消防団年間行事の消防団員教育訓練を実施することとなり、長時間にわたる研修・訓練となりましたが、「安全管理セミナー」の内容は、消防団活動に関するものや公務災害の全国的な実態と事故の予防策について実例を交えながらの講義でとてもわかりやすく、参加した団員は、講師の話に皆、熱心に耳を傾けていました。

セミナー終了後の団員のアンケートからも安全管理の視点からの研修が重要であることを感じました。現在は、団員からの要望が多かった「S-KYT研修（消防団危険予知訓練）」の開催に向け準備をしているところです。

消防団員が自分自身の安全を確保して活動しなければ、人々を助けることはできません。消防活動を行っていれば、事故や事故に至らなくても“ヒヤリ・ハット”体験があると思いますが、今回の研修で学んだ知識を活用し、災害現場でのミスを最小限に食い止め、より安全な活動をすることで公務災害のない安全な消防団活動を目指して行きます。

それを実現するために、これからも、消防団員の安全管理に対する意識の向上につながる研修を積極的に行っていきたいと考えております。



熱心に耳を傾けている受講者